

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01570

研究課題名（和文）アジア型ウェルビーイングの社会的メカニズムを解明する国際共同研究

研究課題名（英文）Joint International Research for Interrogating Social Mechanisms of Asian Social Well-Being

研究代表者

金井 雅之（Kanai, Masayuki）

専修大学・人間科学部・教授

研究者番号：60333944

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,200,000円

研究成果の概要（和文）：日本を含むアジアの8つの国・地域において、人生におけるどのような出来事や家族など他者とのかかわりが人びとの幸福度に影響を与えるかを、インタビュー調査による国際共同研究によって比較した。幸福/不幸と人生におけるその変化の原因として最も重要なのは、結婚、子育て、介護など、家族とのかかわりであった。また、同じアジアでも、イエの継承やジェンダー役割の重要性は、社会ごとに異なることも明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

幸福にかんする国際比較可能なアンケート調査のデータはすでに存在するが、インタビュー調査のデータはほとんど存在しなかった。この研究でおこなったインタビュー調査のデータは、将来研究者向けに公開する予定である。また、東南アジアやモンゴルを含む地域のデータも希少である。アジアにおいて家族とのかかわりが幸福に大きな影響を与えていることは、少子高齢化が急速に進行するこれからの時代に国家が何をすべきかを検討するための前提となるだろう。

研究成果の概要（英文）：This project investigated how events and social capital over the life course affected subjective well-being and its changes in eight Asian societies, including Japan, through a semi-structured interview with international collaborators. The most critical factor in these Asian societies was family relations, such as marriage, childrearing, and caring. Apart from this commonality, we also observed differences between societies, such as family succession and gender norms.

研究分野：社会学

キーワード：ウェルビーイング 幸福 社会関係資本 ライフコース 混合研究法

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

主観的ウェルビーイング、すなわち幸福の概念や規定要因に欧米とアジアとの文化差が見られることは、社会心理学の実験研究においてこれまでも指摘されてきたが、研究対象は日本など特定の国に限られがちであった。また、社会関係資本が主観的ウェルビーイングに与える影響についての計量的な研究は欧米でもアジアでも豊富に存在するが、各社会に固有な文化的・制度的文脈の影響を丁寧に分析したものは多くない。さらに、主観的ウェルビーイングに関する量的な国際比較調査データは世界価値観調査などこれまでも存在したが、体系的に収集された国際比較可能な質的調査データは存在しなかった。

2. 研究の目的

そこで本研究では、アジアにおける主観的ウェルビーイングの社会的メカニズムの特徴と多様性を、ライフコースにおける中間集団すなわち社会関係資本とのかかわりに着目して解明するために、アジア8ヶ国・地域、すなわち日本、韓国、台湾、モンゴル、タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナムの研究者による国際共同研究をおこなう。前身プロジェクトの量的国際比較調査ですでに得られているデータと、半構造化インタビュー調査で今回新たに収集する質的データを統合する混合研究法により、ウェルビーイングの因果メカニズムにおける各社会の制度的・文化的文脈の効果を解明し、少子高齢化による福祉国家の困難というアジアが直面する課題の解決に向けた政策デザインを提供する。

3. 研究の方法

ライフコース上の出来事、特に社会関係資本が主観的ウェルビーイングの水準と変化にどのような影響を与えるかを探索的に分析するために、アジア8ヶ国・地域で共通のプロトコルに基づく半構造化インタビュー調査（Social Well-Being Interview in Asia: SoWIA）を実施した。

インタビューの対象者は各国24名とし、居住地域（都市部／村落部）、性別（男性／女性）、年齢（40-59歳／50-59歳）、幸福度（低／中／高）を組み合わせた24個の割当枠からそれぞれ1名ずつ抽出した（例：都市部・男性・40-59歳・幸福度低）。ベトナムのみは、地域ごとの社会経済的・文化的違いが顕著、かつ人口構造上若年層が多いとの現地研究チームの見解に従い、居住地域（都市部／村落部）、性別（男性／女性）、年齢（20-39歳／40-59歳／50-59歳）、地域（北部／中部／南部）を組み合わせた割当枠から36名を抽出した。

対象者は原則として、前身プロジェクトで2015-17年にアジア8ヶ国・地域で実施した量的国際比較調査（Social Well-Being Survey in Asia; SoWSA）の回答者から抽出した。しかし、後述する新型コロナウイルス感染症の世界的流行による調査の中断などにより回答者の追跡が困難になった国では、新たに候補者を探した。この場合も、量的調査の設問のうち分析上不可欠なものへの回答は、インタビュー時に別途収集した。

実施時期は、当初は1年目（2019年度）と2年目（2020年度）にすべての国の調査をおこなう予定だった。しかし、2020年初頭に始まった新型コロナウイルス感染症の世界的流行による国内外の移動制限や研究機関への立ち入り制限、さらに政治情勢の不安定化や自然災害などによる調査員や対象者の安全確保の困難などの事情により、いくつかの国で長期にわたる中断を余儀なくされた。本研究の研究期間も1年延長され、最後まで残っていたフィリピンとタイでの調査が完了したのは2023年に入ってからであった（表1）。

インタビューでの主な質問項目は以下の通り。対象者の基本属性、人生で最も幸福／不幸だった時期（理由、家族・近隣・職場・その他の社会集団・公的機関・その当時の社会経済的状況とのかかわり）、10歳から現在までの各年齢での幸福度の変化とその理由（ライフイベントなど）、将来の幸福度の予想、幸福と不幸の定義。

表1: Social Well-Being Interview in Asia の実施時期と対象者の選出方法

| 国・地域 | 居住地域 | 実施時期 | 対象者 | 新規対象者の抽出法 |
|--------|---------|---------------|-------|---------------|
| 日本 | 都市部 | 2020/2-9 | 新規 | エリアサンプリング／機縁法 |
| | 村落部 | 2020/8-9 | 新規 | 機縁法 |
| 韓国 | 都市部・村落部 | 2020/1 | 新規 | エリアサンプリング |
| 台湾 | 都市部・村落部 | 2020/7-2021/1 | 新規 | 機縁法 |
| モンゴル | 都市部 | 2019/9 | SoWSA | |
| | 村落部 | 2020/9 | 新規 | 機縁法 |
| タイ | 都市部・村落部 | 2022/10-11 | 新規 | 機縁法 |
| インドネシア | 都市部・村落部 | 2019/9-10 | SoWSA | |
| フィリピン | 都市部・村落部 | 2022/8-2023/1 | SoWSA | |
| ベトナム | 北部 | 2019/11-12 | SoWSA | |
| | 中部・南部 | 2020/7 | SoWSA | |

4. 研究成果

(1) **幸福と不幸の一般的要因** SoWIA インタビューでの語りの分析から、以下のことが明らかになった。第一に、日本調査における人生で最も幸福だった時期と不幸だった時期の語りの共起ネットワーク分析によれば、両親、仕事、子どもの3つのキーワードは、幸福にも不幸にもともに関連していた。このことは、家族（夫婦関係というよりは世代間関係）という社会関係資本が幸福の原因にも不幸の原因にもなりうる両義性をもつことを示唆する。また、近所の人びとという社会関係資本は基本的には幸福の要因になるが、女性では不幸の要因にもなりうるということが確認された（文献③、④）。第二に、日本、韓国、ベトナム、モンゴル、インドネシアにおける、人生で最も不幸だった時期についての語りを、Uchida & Kitayama(2009)の Cultural Folk Model にあてはめた分析によれば、不幸な出来事に対する対処や適応の仕方には文化差があった。すなわち、不幸の原因を他者や環境に帰責する対処法はモンゴル、インドネシア、韓国で多く見られたのに対し、自己成長の機会と捉える対処法は日本で多く見られた。（文献①）。

(2) **ライフコースにおける幸福度の変化の要因** SoWIA インタビューで尋ねた人生における幸福度の変化とその理由の分析から、以下のことが明らかになった。第一に、日本調査の分析によれば、結婚は男性の幸福度を上昇させるが、女性では幸福度を低下させることもある。子どもにかかわる出来事は幸福度の増加の原因にも減少の原因にもなるが、いずれも女性で大きな影響があり男性では影響が少ない。離家は女性で幸福度の増加の原因になる。一方、仕事上の成功や失敗は、男性の幸福度を大きく増減させるが女性では影響が少ない（文献⑥）。第二に、日本、韓国、ベトナム、モンゴル、インドネシアにおける、職業が幸福度の増減に与える影響の分析によれば、まず職歴のあり方が社会によって大きな違いがあることが明らかになった。すなわち、たとえばベトナム、モンゴル、インドネシアといった新興・途上国では、さまざまな職業を転々とキャリアの継続や蓄積が見られない人が多く存在した。その上で職業生活上のどのような出来事が幸福度の増減に寄与するかについては、自営の場合は事業の成功や失敗、被雇用の場合には職場の人間関係や昇進などが寄与する傾向が普遍的に観察された（文献②）。

(3) **アジア型ウェルビーイングにおける家族の役割** 本研究では社会関係資本がウェルビーイングに与える影響に注目しているが、上記(1)、(2)からわかるように家族は最も重要度の高い社会関係資本と言える。家族との関係が幸福の重要な要因であることは欧米も含めて普遍的に知られていることだが、SoWIA インタビューで日本や韓国を中心とする東アジアの特徴として改めて浮かび上がったのは、世代間の関係とジェンダー規範の重要性である。前者については、日本におけるイエの継承をめぐる意識が、少子化の進行の中で都市部での村落部でも変容してきていることと、にもかかわらず依然として幸福と不幸の大きな要因であり続けていることが明らかになった（文献⑤）。後者については、日本と韓国データの分析によれば、ジェンダー役割は通常時は幸福と不幸の要因にはならないが、家庭内でケアの必要が生じた場合は担い手である女性の幸福度を下げることが明らかになった（文献⑦）。

(4) **成果の位置づけと今後の展望** コロナ禍による調査の中断前に得られたデータを用いた研究成果は、日本社会学会や国際社会学会など国内外の学会や英語論文として公表されつつある。研究期間の最終年度末によりやく最後の2ヶ国の調査が終わったばかりなので、今後はこれらを含めて各国のデータを整備・統合し、国別比較や量的調査データと関連づけた混合研究法による分析をおこなっていく予定である。また、SoWIA インタビューデータは整備が完了したら、韓国社会科学データアーカイブ（KOSSDA）で二次分析用に公開する予定である。

<引用文献>

- ① Kanai, M., 2021, "Rationality and Subjective Wellbeing in Different Institutional Contexts," IV ISA Forum of Sociology, Online, 2021/02/25.
- ② 金井雅之、2021、「職業生活が幸福度に与える影響の国際比較：アジア型ウェルビーイングと格差・不平等(1)」第94回日本社会学会大会、オンライン、2021年11月14日。
- ③ 矢崎慶太郎、2021、「家族関係における幸福と不幸の両義性：アジア型ウェルビーイングと家族(1)」、第94回日本社会学会大会、オンライン、2021年11月14日。
- ④ Yazaki, K., 2021, "The Ambivalent Effects of Family on Well-Being: Family Norms and Well-Being in Japan," *The Senshu Social Well-Being Review* 8:17-31.
- ⑤ Shimane, K., 2021, "Attitudes toward *Ie* Succession in Contemporary Japan: An Analysis of the SoWIA Survey," *The Senshu Social Well-Being Review* 8:33-41.
- ⑥ Kanai, M., 2023, "Gender, Family, and Well-Being in Asia: A Comparative Approach," The 7th Conference of the International Consortium for Social Well-Being Studies, Senshu University, 2023/02/05.
- ⑦ Iinuma, T., 2023, "Impact of Gender Norms and Roles on Emotional Elements," The 7th Conference of the International Consortium for Social Well-Being Studies, Senshu University, 2023/02/05.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計27件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 17件）

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 稲田 十一 | 4. 巻 675・676 |
| 2. 論文標題 中国「一帯一路」事業のスリランカへのインパクトとその評価 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 専修大学社会科学研究所月報 = The Monthly Bulletin of the Institute for Social Science Senshu University | 6. 最初と最後の頁 35～48 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34360/00011164 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Ryozo Yoshino | 4. 巻 NA |
| 2. 論文標題 People and Trust | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 T. Imaizumi, A. Nakayama, S. Yokoyama eds., Advanced Studies in Behaviormetrics and Data Science, Springer | 6. 最初と最後の頁 453-472 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 稲田十一 | 4. 巻 NA |
| 2. 論文標題 ドナーとしての中国の台頭とそのインパクト カンボジアとラオスの事例 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 金子芳樹・山田満・吉野文雄（編）『「一帯一路」時代の ASEAN』明石書店 | 6. 最初と最後の頁 158-187 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 吉野諒三 | 4. 巻 49(2) |
| 2. 論文標題 未回収層のプロファイリング 「信頼感」で読み解く世論調査の標本バイアス | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 行動計量学 | 6. 最初と最後の頁 147-174 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2333/jbhmk.49.147 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 吉野諒三 | 4. 巻 69(2) |
| 2. 論文標題 「日本人の国民性」調査と「意識の国際比較」---「統計数理」から「データの科学」へ--- | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 統計数理 | 6. 最初と最後の頁 259-281 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 吉野諒三 | 4. 巻 131 |
| 2. 論文標題 戦後の世論調査の回顧と展望 - 新任会長挨拶に代えて | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 世論調査協会報 | 6. 最初と最後の頁 20-25 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 稲田十一 | 4. 巻 55 |
| 2. 論文標題 急拡大する中国の対外経済協力とその規範の変容可能性 ミャンマー・ミッソングムの事例を中心に | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 専修大学社会科学研究所・社会科学年報 | 6. 最初と最後の頁 29-48 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 稲田十一 | 4. 巻 56 |
| 2. 論文標題 カンボジア開発過程への中国の影響 国際援助協調の衰退と権威主義化の連動の分析 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 専修大学社会科学研究所・社会科学年報 | 6. 最初と最後の頁 43-64 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34360/00012789 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Tatsuo Komorida | 4. 巻 8 |
| 2. 論文標題 Differences in Determinants of Subjective Well-Being by Sexual Orientation : A Comparison of Heterosexual and Gay Men in Japan | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 The Senshu social well-being review | 6. 最初と最後の頁 55-64 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34360/00012566 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Sato Yoshimichi | 4. 巻 NA |
| 2. 論文標題 Globalization and Social Inequality in the Context of Japan | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 L. Roulleau-Berger, P. Li, S.-K. Kim, and S. Yasawa, Handbook of Post-Western Sociology: From East Asia to Europe, Brill | 6. 最初と最後の頁 530?541 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/9789004529328_029 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 佐藤嘉倫 | 4. 巻 NA |
| 2. 論文標題 AIを備えたロボットは家族の一員になれるか? | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 佐藤嘉倫・稲葉陽二・藤原佳典 (編著) 『AIはどのように社会を変えるか』東京大学出版会 | 6. 最初と最後の頁 165-182 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 佐藤嘉倫 | 4. 巻 NA |
| 2. 論文標題 多様性と多文化共生 - 社会学の視点から - | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 東北大学教養教育院 (編) 『東北大学教養教育院叢書 大学と教養 4 多様性と異文化理解』東北大学出版会 | 6. 最初と最後の頁 29-50 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 稲田十一 | 4. 巻 NA |
| 2. 論文標題 カンボジアの近代化と社会変容 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 阿曾沼邦昭(編)『カンボジアの近代化』文真堂 | 6. 最初と最後の頁 67-82 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 原田博夫 | 4. 巻 57 |
| 2. 論文標題 非常時における予算・財政措置の見直し: COVID-19対策を契機に | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 社会科学研究所年報 | 6. 最初と最後の頁 191-204 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Katsumi Shimane | 4. 巻 8 |
| 2. 論文標題 Attitudes toward the Succession in Contemporary Japan: An Analysis of the SoWIA Survey | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 The Senshu Social Well-being Review | 6. 最初と最後の頁 33-41 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.34360/00012564 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Keitaro Yazaki | 4. 巻 8 |
| 2. 論文標題 The Ambivalent Effects of Family on Well-Being: Family Norms and Well-Being in Japan | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 The Senshu Social Well-being Review | 6. 最初と最後の頁 17-31 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.34360/00012563 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 Tatsuo Komorida | 4. 巻 8 |
| 2. 論文標題 Differences in Determinants of Subjective Well-Being by Sexual Orientation: A Comparison of Heterosexual and Gay Men in Japan | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 The Senshu Social Well-being Review | 6. 最初と最後の頁 55-64 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34360/00012566 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Tatsuo Komorida | 4. 巻 8 |
| 2. 論文標題 An Online Survey on the Mental Health of Lesbian and Bisexual Women in Japan | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 The Senshu Social Well-being Review | 6. 最初と最後の頁 65-78 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34360/00012567 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Aguru Ishibashi | 4. 巻 7 |
| 2. 論文標題 Model Construction Using a Prospective Approach Based on the Demographic Transition Theory | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 The Senshu Social Well-being Review | 6. 最初と最後の頁 27-44 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34360/00011756 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Aguru Ishibashi | 4. 巻 8 |
| 2. 論文標題 Factors Influencing Sexual Satisfaction in Men and Women: A Study in Japan | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 The Senshu Social Well-being Review | 6. 最初と最後の頁 43-54 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34360/00012565 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Masayuki Kanai, Katsumi Shimane, and Dang Thi Viet Phuong | 4. 巻 NA |
| 2. 論文標題 Ancestor Worship and Quality of Life: Transforming Bonds with the Deceased in Contemporary Japan | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Quality of Life in Japan (Ming-Chang Tsai, Noriko Iwai Eds.) | 6. 最初と最後の頁 151-169 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-13-8910-8 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Takeko Iinuma | 4. 巻 6 |
| 2. 論文標題 Objective and Subjective Well-Being: Possibilities for Supplementing Measures of Women's Empowerment | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 The Senshu Social Well-being Review | 6. 最初と最後の頁 13-24 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 佐藤嘉倫 | 4. 巻 48 |
| 2. 論文標題 ソーシャル・キャピタル生成メカニズムの理論的分析：マイクロ・メゾ・マクロレベルの相互連関に着目して | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 社会学年報 | 6. 最初と最後の頁 85-93 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 Hiroo Harada and Eiji Sumi | 4. 巻 NA |
| 2. 論文標題 Happiness in Contemporary Japan: Study of Lifestyle and Values Using the Relative Income Hypothesis | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Quality of Life in Japan (Ming-Chang Tsai, Noriko Iwai Eds.) | 6. 最初と最後の頁 49-76 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-13-8910-8 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 Hiroo Harada | 4. 巻 6 |
| 2. 論文標題 Proposal for Social Well-being Studies in Asia: A Challenge beyond GDP | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 The Senshu Social Well-being Review | 6. 最初と最後の頁 3-11 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 Ming-Chang Tsai and Ying-Ting Wang | 4. 巻 18 |
| 2. 論文標題 Intergenerational Exchanges in East Asia: A New Look at Financial Transfers | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Comparative Sociology | 6. 最初と最後の頁 173 ~ 203 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/15691330-12341492 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Ming-Chang Tsai | 4. 巻 NA |
| 2. 論文標題 Intimacy, Similarity, and Equality Among Married People in East Asia | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Quality of Life in Japan (Ming-Chang Tsai, Noriko Iwai Eds.) | 6. 最初と最後の頁 171-192 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-13-8910-8 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計37件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 26件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 Yoshimichi Sato |
| 2. 発表標題 A Study of the Mitigating Effect of Social Capital on Crime in Tokyo |
| 3. 学会等名 Global City and Urban Development (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Yoshimichi Sato |
| 2. 発表標題 Social Capital and Social Networks |
| 3. 学会等名 The 31st Dokkyo International Forum 2019 Recent Trends in Social Network Analysis (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 稲田十一 |
| 2. 発表標題 急拡大する中国の対外経済協力とその「規範」の変容可能性 ミャンマー・ミッソングラムの事例を中心に |
| 3. 学会等名 日本国際政治学会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Masayuki Kanai |
| 2. 発表標題 Gender, Family, and Well-Being in Asia: A Comparative Approach |
| 3. 学会等名 7th Conference of the International Consortium for Social Well-Being Studies (国際学会) |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Keitaro Yazaki |
| 2. 発表標題 The Ambivalent Effects of Family on Well-Being: Family Norms and Well-Being in Japan |
| 3. 学会等名 7th Conference of the International Consortium for Social Well-Being Studies (国際学会) |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Takeko Iinuma |
| 2. 発表標題 Impact of Gender Norms and Roles on Emotional Elements |
| 3. 学会等名 7th Conference of the International Consortium for Social Well-Being Studies (国際学会) |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Katsumi Shimane |
| 2. 発表標題 Life Histories of Two Women Who Succeeded the Japanese Stem Family (Ie) |
| 3. 学会等名 7th Conference of the International Consortium for Social Well-Being Studies (国際学会) |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Masayuki Kanai |
| 2. 発表標題 Changes in Happiness Level over the Life Course: Methodological Issues in Quantitative and Qualitative Approaches |
| 3. 学会等名 20th ISQOLS Annual Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Masayuki Kanai |
| 2. 発表標題 Climate Disasters and Social Capital: A Quantitative Comparison among Southeast and East Asian Societies |
| 3. 学会等名 17th Asia Pacific Sociological Association Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Takeko Inuma |
| 2. 発表標題 A Review of Resilience in Crisis Management: Toward a Proactive Perspective |
| 3. 学会等名 17th Asia Pacific Sociological Association Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Yoshimichi Sato and Hiroko Inoue |
| 2. 発表標題 The Relationship between within-Country and between-Country Inequality in Globalization |
| 3. 学会等名 IV ISA Forum of Sociology (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Guillermina Jasso and Yoshimichi Sato |
| 2. 発表標題 Studying Inequality: Some Questions and Answers |
| 3. 学会等名 The 13th Annual INAS Conference 2021 online (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 佐藤嘉倫 |
| 2. 発表標題 コロナ禍における高齢者のソーシャル・キャピタルに関する理論的考察 |
| 3. 学会等名 日本老年社会科学会第63回大会 (招待講演) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Yoshimichi Sato |
| 2. 発表標題 Social Capital in the Creation of Governance, Participation, and Inequality in Big Cities |
| 3. 学会等名 中国社会学会 中日社会学会年次大会 国際シンポジウム「大都市のガバナンスと参加」(招待講演)(国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 吉野諒三 |
| 2. 発表標題 回収層・未回収層のプロファイリング GSS信頼感尺度3項目と調査協力率の視点から |
| 3. 学会等名 第50回日本行動計量学会研究大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Juichi Inada |
| 2. 発表標題 The Paths to Democracy in Former Portuguese Colonial States: Comparative Analyses of Angola and Timor Leste |
| 3. 学会等名 26th IPSA World Congress of Political Science (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Aguru Ishibashi |
| 2. 発表標題 Effects of intercourse on happiness by gender and marital status: A case of Japan |
| 3. 学会等名 20th ISQOLS Annual Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Hiroo Harada |
| 2. 発表標題 Emergency Policy and System Design in Japan's Civil Society: In the Context of COVID-19 |
| 3. 学会等名 ASOPS-SNUAC Joint Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 原田博夫 |
| 2. 発表標題 アジアにおけるハピネス/ウェルビーイング |
| 3. 学会等名 土浦市倫理法人会 (招待講演) |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 金井雅之 |
| 2. 発表標題 職業生活が幸福度に与える影響の国際比較 アジア型ウェルビーイングと格差・不平等 (1) |
| 3. 学会等名 第94回日本社会学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 小林盾・Dolgion Aldar |
| 2. 発表標題 貧困と幸福感 モンゴルを事例として、アジア型ウェルビーイングと格差・不平等 (2) |
| 3. 学会等名 第94回日本社会学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 大崎裕子 |
| 2. 発表標題 教育格差認識が幸福感に与える影響にかんする日韓比較分析 アジア型ウェルビーイングと格差・不平等(3) |
| 3. 学会等名 第94回日本社会学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 矢崎慶太郎 |
| 2. 発表標題 家族関係における幸福と不幸の両義性 アジア型ウェルビーイングと家族(1) |
| 3. 学会等名 第94回日本社会学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 飯沼健子 |
| 2. 発表標題 ジェンダー規範・役割の感情要素への影響 アジア型ウェルビーイングと家族(2) |
| 3. 学会等名 第94回日本社会学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 嶋根克己 |
| 2. 発表標題 姉家督による家系の継承と幸福感 アジア型ウェルビーイングと家族(3) |
| 3. 学会等名 第94回日本社会学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 金井雅之 |
| 2. 発表標題 ライフイベントと幸福度の変化 量的・質的データの分析 |
| 3. 学会等名 第71回数理社会学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Masayuki Kanai |
| 2. 発表標題 Rationality and Subjective Wellbeing in Different Institutional Contexts |
| 3. 学会等名 IV ISA Forum of Sociology (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Masayuki Kanai |
| 2. 発表標題 Objective/Subjective Inequality and Happiness in Asian Countries |
| 3. 学会等名 13th Annual INAS Conference 2021 (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Masayuki Kanai |
| 2. 発表標題 Heterogeneous Effect of Religious Groups on Wellbeing in Different Cultural Contexts |
| 3. 学会等名 2021 Conference of the International Society for Quality-of-Life Studies (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Masayuki Kanai |
| 2. 発表標題 Cultural Folk Models of Happiness in Asia: Evidence from a Cross-National Interview |
| 3. 学会等名 OPEN MIND MONGOLIA 2021 (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Masayuki Kanai |
| 2. 発表標題 Diverse Effects of Relative Comparison on Subjective Wellbeing among Asian Societies |
| 3. 学会等名 Mid-term Conference of the ISA-RC55 Research Committee on Social Indicators (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Masayuki Kanai |
| 2. 発表標題 Effect of Perceived Domain Unfairness on Subjective Wellbeing: Comparison between East and Southeast Asian Societies |
| 3. 学会等名 17th ISQOLS Annual Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Masayuki Kanai |
| 2. 発表標題 Inequality and Subjective Well-Being in Seven Asian Countries: Evidence from a Cross-National Survey and Policy Implications |
| 3. 学会等名 AASSREC 2019 Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Katsumi Shimane |
| 2. 発表標題 Role of Higher Education for Human Resources: Comparison Japan and Vietnam |
| 3. 学会等名 Improving Quality of Population: International Experience and Suggestions for Vietnam (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Hiroko Osaki |
| 2. 発表標題 Does generalized trust moderate the effect of relative income on happiness? |
| 3. 学会等名 17th ISQOLS Annual Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Tadahiko Maeda |
| 2. 発表標題 Stability of determinants of life satisfaction in contemporary Japan |
| 3. 学会等名 17th ISQOLS Annual Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Hearan Koo |
| 2. 発表標題 Happy country and unhappy country, what 's in their peoples ' mind? A cross-country comparison on the configuration of mental state |
| 3. 学会等名 17th ISQOLS Annual Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計2件

| | |
|--------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 佐藤嘉倫・稲葉陽二・藤原佳典 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 東京大学出版会 | 5. 総ページ数 288 |
| 3. 書名 AIはどのように社会を変えるか | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Ryozo Yoshino | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 Springer | 5. 総ページ数 168 |
| 3. 書名 Cultural Manifold Analysis on National Characater | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|----------------------------------|----|
| 研究分担者 | 山田 昌弘 (Yamada Masahiro) (90191337) | 中央大学・文学部・教授 (32641) | |
| 研究分担者 | 大矢根 淳 (Oyane Jun) (80281319) | 専修大学・人間科学部・教授 (32634) | |
| 研究分担者 | 嶋根 克己 (Shimane Katsumi) (20235633) | 専修大学・人間科学部・教授 (32634) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|---------------------------------|----------------|
| 研究分担者 | 飯沼 健子 (Iinuma Takeko) (70384667) | 専修大学・経済学部・教授 (32634) | |
| 研究分担者 | 佐藤 嘉倫 (Sato Yoshimichi) (90196288) | 京都先端科学大学・人文学部・教授 (34303) | |
| 研究分担者 | 小林 盾 (Kobayashi Jun) (90407601) | 成蹊大学・文学部・教授 (32629) | |
| 研究分担者 | ホメリヒ カローラ (Hommerich Carola) (60770302) | 上智大学・総合人間科学部・准教授 (32621) | |
| 研究分担者 | 大崎 裕子 (Osaki Hiroko) (10825897) | 立教大学・社会学部・特任准教授 (32686) | |
| 研究分担者 | 矢崎 慶太郎 (Yazaki Keitaro) (40838033) | 専修大学・人間科学部・兼任講師 (32634) | 削除：2020年10月16日 |

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---------------------------|--------------------------|----|
| 研究協力者 | 原田 博夫 (Harada Hiroo) | 専修大学・名誉教授 (32634) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|--|----|
| 研究協力者 | 吉野 諒三 (Yoshino Ryozo) (60220711) | 同志社大学・研究開発推進機構・嘱託研究員 (34310) | |
| 研究協力者 | 前田 忠彦 (Maeda Tadahiko) (10247257) | 統計数理研究所・データ科学研究系・准教授 (62603) | |
| 研究協力者 | 芝井 清久 (Shibai Kiyohisa) (90768467) | 統計数理研究所・データ科学研究系・特任助教 (62603) | |
| 研究協力者 | 田中 康裕 (Tanaka Yasuhiro) (20454093) | 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構（機構本部施設等）・データサイエンス共同利用基盤施設・特任研究員 (82657) | |
| 研究協力者 | 稲垣 佑典 (Inagaki Yusuke) (30734503) | 成城大学・社会イノベーション学部・准教授 (32630) | |
| 研究協力者 | 神原 理 (Kambara Satoshi) (32634) | 専修大学・商学部・教授 (32634) | |
| 研究協力者 | 鈴木 奈穂美 (Suzuki Naomi) (10386302) | 専修大学・経済学部・教授 (32634) | |
| 研究協力者 | 稲田 十一 (Inada Juichi) (50223219) | 専修大学・経済学部・教授 (32634) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|------------------------------------|-------------------------------------|----|
| 研究協力者 | 鷺見 英司 (Sumi Eiji) (60337219) | 日本大学・経済学部・教授 (32665) | |
| 研究協力者 | 中村 知子 (Nakamura Tomoko) | 茨城キリスト教大学・非常勤講師 (32101) | |
| 研究協力者 | 渡邊 悟史 (Watanabe Satoshi) | 龍谷大学・社会学部・講師 (34316) | |
| 研究協力者 | 小森田 龍生 (Komorida Tatsuo) | 常盤大学・人間科学部・准教授 (32103) | |
| 研究協力者 | 金 思穎 (Jin Siying) | 専修大学・人間科学部・兼任講師 (32634) | |
| 研究協力者 | 石橋 拳 (Ishibashi Aguru) | 専修大学・大学院文学研究科・博士後期課程 (32634) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

| | |
|--|--------------------|
| 国際研究集会 7th Conference of the International Consortium for Social Well-Being Studies | 開催年 2022年～2022年 |
|--|--------------------|

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| | |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|

| | | | | |
|--------------|------------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|------|
| 韓国 | Seoul National University | University of Seoul | The National Academy of Sciences | |
| その他の国・地域(台湾) | Academia Sinica | National Taipei University | National Chung-Cheng University | 他3機関 |
| モンゴル | 独立モンゴル研究所 | National University of Mongolia | National Academy of Governance | |
| タイ | Chulalongkorn University | Naresuan University | Ubon Ratchathani University | |
| インドネシア | University of Indonesia | | | |
| フィリピン | Ateneo de Manila University | | | |
| ベトナム | Vietnam Academy of Social Sciences | | | |